

No.243 2004.1

東京大学低温センター 低温センター・ニュース

<http://www.crc.u-tokyo.ac.jp> TEL. 22852(事務室)22853,22862(技官室)

ご挨拶

センター長 岸尾 光二
(大学院工学系研究科・応用化学専攻/超伝導工学専攻)

2004年初頭にあたりご挨拶申し上げます。日頃より、学内における寒剤利用や共同研究室利用者グループ、また、学内外関係者皆様の御協力と御尽力のおかげで、2003年度も、ますますの供給量増大にも関わらず、事故も無く無事に業務を続けております。

御承知のように、本年4月1日の東京大学法人化を控えての課題と必要な作業は山積みです。本センターの大きな役割として、寒剤を出来るだけ低い価格で毎日の学内への供給が可能となるようこれまで職員一同努力して来ました。年間予算には、たとえば、心臓部であるヘリウム液化装置(1992年設置)を中心とした供給量増加、新規装置システム更新のための積立金、さらに、労基法の遵守、環境安全などに対する本来当たり前であるはずの必要経費は含まれず、すべてを概算要求を中心とした自己努力のみにより、業務を強いられてきたのが現状です。法人化に伴い必要とされる強引な改革?、アカデミア内の研究支援組織として決して適当だとは個人的には思いませんが、皆様からの御理解と十分な議論とご協力をお寄せ頂けると幸いです。

当センターでは、低温科学・工学に関わる最先端の研究を使命としていることも御存知のことと思います。初代平田森三センター長が設立以来、学内でも最も古い歴史を有するセンターとしての誇りを持ちつつ研究部門を運営しています。2003年のNobel賞が、物理学では超伝導・超流動に対する受賞であったこと、医学・生理学もMRIに関する研究であったことは、関連研究と技術に関わるわれわれ教職員にとってもたいへん嬉しい知らせでした。

引き続き、低温センターに対する皆様の御支援をどうぞお願い申し上げます。

○ヘリウムガス回収率

平成15年11月分

(単位は全てm³)

	11/4在庫	12/1在庫	供給量	回収量	損失量	回収率(%)
理サブ	776.4	1126.4	5470.5	4109.7	1010.9	80.3
工サブ	785.9	687.5	3517.5	2951.6	664.3	81.6
農学NMR	62.9	76.7	72.0	54.8	3.3	94.3
総合試験所	240.0	255.5	363.0	314.2	33.4	90.4
合計	1865.2	2146.1	9423.0	7430.3	1711.9	81.3
特別価格	—	—	72.0	0.0	72.0	—
備考	回収率 = $\frac{\text{回収量}}{(\text{供給量} + 11/4\text{在庫}) - (12/1\text{在庫})}$ 回収ガスは純度100%として、回収率を計算					

平成15年12月分

(単位は全てm³)

	12/1在庫	1/5在庫	供給量	回収量	損失量	回収率(%)
理サブ	1126.4	544.0	5250.0	4917.4	915.0	84.3
工サブ	687.5	600.1	4557.8	3869.9	775.4	83.3
農学NMR	76.7	72.5	72.0	53.6	22.7	70.3
総合試験所	255.5	257.5	620.3	266.1	352.2	43.0
合計	2146.1	1474.1	10500.1	9107.0	2065.3	81.5
特別価格	—	—	118.5	3.0	115.5	—
備考	<p style="text-align: center;">回 収 量</p> $\text{回収率} = \frac{\text{回収量}}{(\text{供給量} + 12/1\text{在庫}) - (1/5\text{在庫})}$ <p style="text-align: center;">回収ガスは純度100%として、回収率を計算</p>					